

(表 26)

分散分析 XV.C ₁ (中学校教師意識調査と高校教師意識調査の比較)				
要因	平方和	自由度	不偏分散	分散化
水準	5006.41	1.000	5006.41	
誤差	3926.06	76.000	5165.87	96.913
全体	8932.47	77.000		

(危険率 1% で有意差あり。したがって中学校教師の意識と高校教師の意識の変動は偶然変動ではない。)

(表 27)

分散分析 XVI.C ₂ (中学校教師意識調査と学力テストの比較)				
要因	平方和	自由度	不偏分散	分散化
水準	314.808	1.000	314.808	
誤差	26262.9	76.000	345.565	0.911
全体	26577.7	77.000		

(有意差なし)

(表 28)

分散分析 XVII.C ₂ (高校教師意識と学力テストの比較)				
要因	平方和	自由度	不偏分散	分散比
水準	4961.65	1.000	4961.65	
誤差	2638.89	76.000	347.222	14.290
全体	31350.6	77.000		

(危険率 1% で有意差あり。したがって高校意識調査と学力テストの変動は偶然変動ではない。)

(表 29)

分散分析 XVIII.C ₂ (中学校教師意識調査と高校意識調査の比較)				
要因	平方和	自由度	不偏分散	分散比
水準	2776.89	1.000	2776.89	
誤差	2365.36	76.000	31.1232	89.222
全体	5142.25	77.000		

(危険率 1% で有意差あり。したがって中学校教師の意識の変動は偶然変動ではない。)

以上が、A, B₁, B₂, C₁, C₂ の各調査校ごとの、それぞれの調査の分析結果であり、

ア 中学校教師の生徒の能力に対する意識と学力テストの結果では有意差のあらわれたのが A と B₂。有意差のあらわれなかったのが B₁, C₁, C₂ である。

イ 高等学校教師の生徒の能力に対する意識と学力テストの結果の比較では、B₁, C₁, C₂ に有意差があらわれ、A, B₂ には有意差があらわれない。

ウ 中学校教師の生徒の能力に対する意識と高等学校教師の生徒の能力に対する意識との比較では、各校とも有意差があらわれている。ということがわかる。これを、学力テストの結果による順序にはめこんでみると次のようになる。

(図 2)

比較項目 有意差	中学校教師意識と学力テスト		高等学校教師意識と学力テスト		中学校教師意識と高校教師意識	
	有	無	有	無	有	無
A	①			●	①	
B ₂	①			●	①	
B ₁		●	⑤		①	
C ₂		●	①		①	
C ₁		●	①		①	

(○の中の数字は危険率)

ここには、生徒の能力に対する中学校教師の意識と高校教師の意識の間にあるくいちがいほどの調査校にもいえることが示されている。

さらに、学力テストの結果との比較の場合は調査校の学力テストの平均点による段階によって、有意差のあらわれ方が違うことも示している。学力テストの平均点の高い調査校では高校教師意識調査との比較に有意差があるのに対し学力テストの平均点の低い調査校では中学校教師意識調査との比較に有意差がある。